

市制施行12年を振り返って



議会改革ネットワーク ● 矢野 進次 議員

問 「ずっとここに暮らしたい、みんなで創ろうきらめき湖南」の実現に向けて各事業に取り組みだされたが、計画通りできましたか。

答 合併直後は、まちが一つになるという命題がありました。ハード面では道路をつなぐということ、石部甲西連絡道路の新設、野洲川に架かる橋を4本から7本にしたことなど災害が発生した時に対応できる強い道路ネットワークの構築が図れました。ソフト面ではまちの一体感や繋がりで、地域の特色を生かしたまちづくり協議会を設立し支援をしました。国際協会の設立、各種団体の統合、湖南三山の全国ブランドとしての定着なども行いました。

JR草津線の複線化と各駅のバリアフリー化、吉永山手線の整備未完了、中郡橋や



第二次湖南市総合計画

甲西中央橋の架け替えなど積み残した課題もあります。

消費増税再延期と市の財政について

問 公約違反をして再延期をしました。その影響はいかがですか。

答 延長により歳入面で2億1千万円程度減となり、新規事業や社会保障関連事業の財源に影響があります。

問 4期目をめざし市長選挙に立候補の意思を固めたとの新聞報道がありました。うかがいます。

答 人口減少時代に対応し、時代を先取りしたまちづくりのため微力を尽くしてまいり、市長選挙に挑ませたいと存じます。

心ある行政改革を 怒ろう国交省と専門家に



誠心会 ● すがぬま 利紀 議員

問 阿星児童館の廃止に対し、市民や議会の意見はほったらかしにしたのか。

答 議会の指導に従い区長と共に現地踏査を行いました。結果、門柱と石垣を残すことで対応できたと認識しています。

問 平成26年12月議会にて議員の質問に担当者から、歴史を継承すると答弁があったが、継承として何を行ったのか。

答 特に何も行っていません。

を図り、市民の意見を聞き、理解と参画をもって進めることが大切であると考えます。

問 国道1号バイパスと野神8号線の交差点の死亡事故は国交省の責任として、土砂一時保管のあり方、雑草の処理、信号機の設置、4車線化の促進とともに強く声を上げるべきではないか。

答 要望の重点事項として力を入れます。



国道1号バイパス横の現状

問 専門家の予測に逆らい、恋活婚活事業を少子化改善のモデル事業として確立すべきではないか。

答 出会う機会の創出をはじめ、婚活の経験を活かしながら実施に取り組めます。

問 現状、課題、取り組み方について情報共有